

平成22年度 第1回 鳥取市生活交通会議
議事要旨

1. 日時 平成22年7月6日(火) 10:00~12:00
2. 場所 鳥取市役所 本庁舎6階 第1会議室
3. 出席者
- | | | | |
|---------|----------------------------|------------------------------|--------|
| 会長 | 〔学識経験者〕 | 鳥取大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻准教授 | 谷本 圭志 |
| 副会長 | 〔鳥取市〕 | 都市整備部長 | 田中 政幸 |
| 委員 | 〔住民利用者代表〕 | 市自治会連合会(河原町,用瀬町,佐治町) | 谷村 萬吉 |
| | | 〃 (気高町,鹿野町,青谷町) | 水上 洋八 |
| | 市老人クラブ連合会(旧鳥取市,国府町,福部町) | 〃 (河原町,用瀬町,佐治町) | 前田 豊 |
| | | 〃 (気高町,鹿野町,青谷町) | 田淵 丹次 |
| | | 鳥取市連合婦人会 | 本部 享司 |
| | 〔運送事業者〕 | 日ノ丸自動車株式会社 取締役営業部長 | 油谷 都々江 |
| | | 日本交通株式会社 バス営業部次長 | 中村 芳晴 |
| | | 西日本旅客鉄道株式会社 鳥取鉄道部運輸科長 | 中嶋 敬治 |
| | | 県ハイヤータクシー協会 東部支部長 | 三谷 宏志 |
| | 〔運送事業者労組〕 | 私鉄中国地方労働組合 日ノ丸自動車支部鳥取分会執行委員長 | 橋本 貞治 |
| 〔中国運輸局〕 | 鳥取運輸支局主席運輸企画専門官 | 村上 恵 | |
| 〔警察〕 | 鳥取警察署交通第一課長代理 | 丹下 力俊 | |
| 事務局 | | 山本 一人 | |
| | 鳥取市都市整備部交通対策室(中村、鈴木、澤田、遠藤) | | |

協議事項

(案件 1) 平成 2 1 年度鳥取市生活交通会議事業報告・決算について

【事務局が説明、橋本委員が監査報告】

谷本会長 事業報告・決算について、何か質問はあるか。なければ了承ということでよろしいか。

一 同 異議なし。

(案件 2) 湖山循環バスの運行について

【事務局が説明】

中嶋委員 湖山駅から乗車すれば、湖山駅で降車する人が多いと思うが、乗降調査の結果をみると、そうではないのはなぜか。

事務局 保育園の子供がたくさん、保育士の方と一緒に乗っていた。帰りは別的手段で帰っているようだ。ただ、他では帰りも同じところから利用している人が多くみられた。

谷本会長 新たに追加した尾崎病院や湖山西小学校等、新しいルートの利用者が少ない。この地域への広報は十分に行っているか。

事務局 沿線世帯に自治会を通じて回覧を行っているのと、バス停に湖山循環バスの路線図等を載せている。

谷本会長 利用促進もそうだが、小学校を通じてアピールすればどうか。

事務局 ポスターは学校に配っている。あと、出合いの森の利用が十分でなく、PR不足ということもあったので、日ノ丸自動車にご協力いただき、東部地域のバス車内にポスターを張ってPRをしているところである。

橋本委員 継続運行の判断基準の5人/便はどの区間で考えているのか。

事務局 一律150円なので、区間は特に想定していない。

橋本委員 広報について提案だが、チラシは一度見れば次になかなか見ずに忘れてしまう。どこかに貼れるようにする等、チラシに限らず広報の仕方いろいろあるのではないかと。徹底的にしないと地域には根付かないと思う。

谷本会長 バスネットの初めの画面で湖山循環バスのPR広告を表示することはできないか。「出合いの森にいける」等。

事務局 バスネット制作側に確認する。

橋本委員 ぴょんぴょんネットで広報はしているのか。また、出合いの森でも広報を行っているのか。

事務局 ぴょんぴょんネットで「出合いの森へ行ける」といった広報は行っている。また、出合いの森のホームページでの案内や、出合いの森内の施設にもポスターを掲示してもらっている。

谷本会長 湖山循環バスは生活だけでなく余暇等にも使われる。若い方を対象とした広報も有効ではないか。

谷村委員 利用が増えない理由が、必要性が無いからなのか料金が安いからなのか等、そのあたりがよくわからない。そのあたりを事務局はどのように考えているのか。

- 事務局 料金についてはアンケートでは妥当であるという意見があったので問題はないのではと考えている。湖山にはスーパーや病院が多くあるので、そちらへの利用を想定して運行している。車を持っている人も多く、生活パターンがなかなか変わりにくいというのがあるのではないか。
- 谷本会長 この地域は頑張れば施設に歩いて行けたり、若い世代も多く住んでいたりと、必要性という面からいうとくる梨に比べると低いかもしれないと個人的には思う。ただ、受け身的に考えるのではなく、「こういう使い方ができる」といったようなPRをしながら、可能な限り利用者を増やしていくことが重要である。
- 鳥取市では、バスは夏と冬ではどちらの利用者が多いのか。
- 中嶋委員 冬だと思う。夏休み等は利用は少ない。
- 谷本会長 地元には、現状や今後の方針について説明はするのか。
- 事務局 近々説明する予定である。
- 中嶋委員 例えば、店舗とタイアップして、スタンプサービス等できないのか。特典があれば利用者も増えるのではないか。
- 事務局 店舗との協働は考えたが、期間的に難しいと判断した。
- 橋本委員 もし乗降調査を再度実施するのであれば、利用目的や年齢層等も調べてターゲットを絞った方が良いのではないか。
- 事務局 6/24の調査では、高齢者が3割程度を占めており、学生の利用が少なかった。
- 中村委員 6月の利用が減っている。コースを変更したが実際の要望とは結びついていないのではないか。なぜなのか理由を明らかにしなくてはならないと思う。1便あたりの利用者増えているかもしれないが、全体としての利用者数を増やさなくては収支率もなかなか上がらない。
- 事務局 今後アンケートを実施する予定なので、そちらで分析する予定である。
- 谷本会長 その他、質問・意見等あるか。
- 一 同 特になし。

(案件3)平成22年度鳥取市生活交通会議補正予算(案)について

【事務局が説明】

- 谷本会長 何か質問はあるか。なければ了承ということによるしいか。
- 一 同 異議なし。

(案件4)鳥取市バス路線網再編実施計画の策定について

【事務局が説明】

- 谷本会長 これまでも出てきた話であるが、路線の話であり、プロであるバス事業者の協力が不可欠である。これについてバス事業者としてはどのようなスタンスであるのか。
- 中村委員 現在、補助金を受けて運行しており、補助金の制度との関連を十分認識できておらず、そこを気にしている。次に問題なのは、どこを拠点にしていくのか、バスが転回できる場所はどこかということである。あとは、運行する上で、路線が短すぎると車両・運転手・タイヤ等の点から事業者としても厳しいので、その辺りがどうな

るかを心配している。また、利用者としては、乗り継ぎを面倒がるのが現実であり、あまり歩かなくてもすぐその場で乗り降りできる施設の整備も大事だと思う。

中嶋委員 日頃から感じているのが、現在のバス路線は、ほとんどが鳥取駅に向かう形になっており、区間によってはかなり重複している。無駄な運行が多く、より効率のよい運行をしないといけないと考えている。あとは、鳥取駅の南側の系統が整理できないかと考えている。国道 29 号や米里あたりをもっと効率よく整理できればと考えている。

谷本会長 市が持っている問題意識と共通点が多いと思う。まずはおおまかに現状分析をした後に、事業者から意見・提案をいただき、その後ダイヤ等について細かく検討を行うというイメージを持っている。

水上委員 補助金という話があったが、他の地域では補助金についてどのように解決しているのか調べる必要があると思う。住民の利便性を確保しながら、効率的な運行をすることは非常に難しいと思うが、例えば鉄道との連携等も考えて、効率を上げていかなければならない。乗り継ぎも考えなければいけないと思うが、乗り継ぎによる運賃増がない形での検討が必要だと思う。その辺りをお願いしたい。

谷本会長 補助金の事例や、うまくやっていく方法はないか。

丹下委員 現在、交通基本法制定に向けて取り組みが進められている途中であり、まだ形がみえておらず明確なことがいえない。

中嶋委員 難しいのは、鳥取市と他町が絡むと国の補助となるが、路線を分割することで市や町の負担が増える場合があること。

水上委員 制度はそうかもしれないが、住民の利便性を考えると、本来ならそういったところに補助を出してもらいたい。

谷本会長 資料に「理想のバス路線網」とあるが、理想には2つあり、1つは「こういうことを実現したいから制度をこうしてほしい」という理想であり、もう一つは「現行の制度の中での理想」だと思う。短期的には後者を見せなくてはならないが、現場からこういう制度にしてほしいという考えは持っていて良いと思う。やはり理想のバス路線網を考えてから修正をかけていくという方法が本来あるべきものだと思うし、そうしないと住民の方も何をしているかわからないと思う。

田中副会長 制度が実態に合っていない。市町村合併で大きな市が増えているのに、今の実態に合っていないと思う。制度の変更を、悩みをかかえる市・住民・事業者が要望すべきである。頑張る人を応援するという制度に変えていただきたい。運輸局の丹下委員には、是非この意見を上層部に上げてもらいたい。

次に、事務局が4人いるが、結局は事業者が主体的にやっていたかとうまくいかないと思う。特に労務のところは行政ではわからない。実際の検討を始めるとなると、ある程度専任の担当をつけていただかないと進まないと思う。利便性が上がれば事業者の利益も上がると思うので、是非お願いしたい。

個人的には、幹線路線については朝晩5分間隔、昼間でも10分間隔くらいで、常に走っている形にできないかと思っている。現在は多くの人に利用してもらいたいため、例えば国道53号では国道だけでなく寄り道運行をしているが、早く回れる形にできないのか。そして乗り継ぎの拠点では、共通のプラットフォームが必要ではないか。

さらに言うと、停留所には必ず自転車置き場を置けないか。また、乗り継ぎ抵抗をなくすため、1路線だけでもICカードを使えるようにする等の実験をしてはどうか。話題にもなると思う。

水上委員 ICカードは問題は高齢者だと思う。

田中副会長 自分の親も高齢者だが、ICカードが始まってすぐに購入していた。

- 水上委員 バス停整備や自転車置き場等は費用がかかる。できるところから取り組むべきだと思う。
- 前田委員 5分、10分ごとの運行は難しいのではないかと。都会のように人が多ければいけると思うが。また、高齢者にとっては乗り降りが負担になっている。
- 谷本会長 乗り継ぎ場所は、乗り継ぐ場所だけではいけないと考えている。買い物場所がたまたま乗り継ぎ場所であったといったように、交通だけでなく生活も含めて考えなくてはならない。そう考えると地方にしかできないこともあるんじゃないかと思う。例えばプラットフォームもバリアフリーで乗りやすい形にする等、今までなかったようなことをしていくと変わっていくかなと思う。
- 田中副会長 夜間については、幹線だけ10時くらいまで30分間隔で運行して、支線近くのタクシー乗り場につなぐという仕組みができればと思う。
- 橋本委員 タクシーも再編の中に組み入れていければと思っている。バス路線の補完といったところでもタクシー事業者が入っていける仕組みをつくることで、実際に金銭的な負担も減ると思う。
- 谷本会長 バスとタクシーの連携を考えるにあたり、タクシーの運賃割引を下げることができないのか。
- 橋本委員 なかなか難しい問題である。ただ、タクシー利用者は高齢者が多く、高齢者の割引等は進めている。
- 水上委員 細い路地や車の入らない場所をどうするかということも含めて総合的に考えていかななくてはならない。
- 橋本委員 福祉タクシーが多くなっているが、道路の形状やスペースの問題でリフトが下ろせなかったりするので、この問題も考えていかなければいけないと思う。
- 前田委員 これから高齢者が増えていく中で、これまでの概念のバスだけでなく乗合タクシー等も考えていかななくてはならない。あとは、夜間についても考えなくてはならない。夜間使えなくては利用しないと思う。
- 谷本会長 福祉の話がでたが、高齢社会課も何か考えているか。分野ごとの連携も考えなくてはならない。
- 事務局 明後日、福祉輸送についての会議を行う予定である。
- 谷本会長 バス停まで歩けない人を放っておくというのは大きな落とし穴だと思うので、それについての検討も必要だと思う。
- 次に、検討ワーキングの構成員と当会議との関係性について再度説明してほしい。
- 事務局 メンバーはバス事業者、タクシー事業者、運輸支局、会長、市を考えている。ワーキングの結果を当会議で報告させていただく。
- 谷本会長 では、この方針・スケジュールで進めるということによろしいか。
- 一同 異議なし。

報告事項

(1) 鳥取交通マップについて

【事務局が説明】

谷本会長 何か質問・意見等あるか。

— 同 特になし。

その他

谷村委員 用瀬地区の高齢者の市立病院の利用者が増えており、朝病院に行ける便、病院を経由して市内に行ける便ができないものかとお願います。地区では高齢化が進んでおり配慮してほしい。

谷本会長 こういった意見は再編でも重要な意見になってくる。その他、何かあるか。

— 同 特になし。

以上